



## 2023年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年1月13日

上場会社名 株式会社コパ・コーポレーション 上場取引所 東  
 コード番号 7689 URL https://www.copa.co.jp/  
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）吉村 泰助  
 問合せ先責任者（役職名）取締役経営企画室長（氏名）松田 三幸（TEL）03-5724-4302  
 四半期報告書提出予定日 2023年1月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2023年2月期第3四半期の業績（2022年3月1日～2022年11月30日）

## （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年2月期第3四半期	2,098	—	△32	—	△32	—	△17	—
2022年2月期第3四半期	3,338	△39.6	159	△80.6	158	△80.5	103	△81.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年2月期第3四半期	△5.80		—					
2022年2月期第3四半期	35.00		—					

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当社は、2021年6月25日開催の定時株主総会において「定款一部変更の件」が承認され、決算期を3月31日から2月末日に変更いたしました。これにより、当第3四半期累計期間（自2022年3月1日 至2022年11月30日）と比較対象となる前第3四半期累計期間（自2021年4月1日 至2021年12月31日）の期間が異なるため対前年同四半期増減率については記載しておりません。

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年2月期第3四半期	3,230	2,875	89.0
2022年2月期	3,303	2,892	87.6

（参考）自己資本 2023年2月期第3四半期 2,875百万円 2022年2月期 2,892百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年2月期	—	0.00	—	—	—
2023年2月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年2月期の業績予想（2022年3月1日～2023年2月28日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,100	—	12	—	12	—	8	—	2.80

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 業績予想に関する事項は、添付資料（P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」）をご覧ください。

3. 当社は、2021年6月25日開催の定時株主総会において「定款一部変更の件」が承認され、決算期を3月31日から2月末日に変更いたしました。従いまして、決算期変更の経過期間となる2022年2月期は、2021年4月1日から2022年2月末日までの11か月決算となったため、通期の対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年2月期3Q	2,963,000株	2022年2月期	2,963,000株
2023年2月期3Q	92株	2022年2月期	45株
2023年2月期3Q	2,962,915株	2022年2月期3Q	2,962,955株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料 (P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」) をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大がありましたが、ウィズコロナの生活様式が浸透し、国内消費に持ち直しの兆しが見られました。しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や、急速な円安の進行、世界的な物価高騰など、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社が属する日用品の卸売市場におきましては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による巣籠り消費に関連していると推測される需要の反動減が引き続き見られただけでなく、原油価格の高騰や一部の原材料や資材の供給が不安定になり、商品が欠品・値上がりするなど、今後の消費活動への影響が懸念され、依然として厳しく不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、当社では企業理念である「時代と共にその形を変え、真にその商みを継承して発展させる」ことを実現させるべく、新たな生活様式に寄り添いながら持続可能で安定的な成長を続けていくため、既存事業だけではなく、2023年中にローンチ予定のライブコマース型クラウドファンディング事業の準備を含む事業活動に取り組んでまいりました。

その結果、当第3四半期累計期間における業績は売上高2,098,173千円、営業損失32,406千円、経常損失32,254千円、四半期純損失17,194千円となりました。

なお、当社は、2021年6月25日開催の定時株主総会において「定款一部変更の件」が承認され、決算期を3月31日から2月末日に変更いたしました。これにより、当第3四半期累計期間（自2022年3月1日至2022年11月30日）と比較対象となる前第3四半期累計期間（自2021年4月1日至2021年12月31日）の期間が異なるため対前年同四半期増減率については記載しておりません。

当社の事業セグメントは、単一の事業セグメントではありますが、販売チャネルを区分した売上高の概況は次のとおりであります

#### ① TV通販

当販売チャネルには、TV通販番組にて販売するため、TV通販番組運営会社に対する商品の売上が含まれます。ビューティ&ヘルス系商品のゴムを使用したピーリングタオル「ゴムポンつつる」、クリーン系商品の掃除用クロス「パルスイクロス」、クリーン系商品のボトルの中では液体なのに噴射した瞬間ジェルに変化するカビ取り剤「スパイダージェル」が売上が牽引しましたが、前年同期の巣籠り消費に関連していたと推測される消費者の購買行動による影響の反動減と、ウクライナ情勢による世界経済への影響（原材料の高騰や円安）により、輸入商品の企画・開発が想定よりも進まなかったことから、メディアで取り上げられる商品数が減少し、広告シャワー効果の影響が薄まったことが尾を引き、当第3四半期累計期間の売上高は、891,363千円となりました。

#### ② ベンダー販売

当販売チャネルには、量販店において店頭で販売するため、量販店に対する商品の売上が含まれます。ビューティ&ヘルス系商品のゴムを使用したピーリングタオル「ゴムポンつつる」、インテリア系商品の軽量な晴雨兼用の折り畳み傘「Gゼロポケット傘」等の商品が売上が牽引いたしましたが、前述のとおり、前年同期の巣籠り消費に関連していたと推測される消費者の購買行動による影響の反動減と一部取引先店舗の来店者数が依然としてコロナ前の水準に戻っておらず、当第3四半期累計期間の売上高は、474,369千円となりました。

#### ③ インターネット通販

当販売チャネルには、インターネット上のショッピングモールでの商品の売上が含まれます。ビューティ&ヘルス系商品のゴムを使用したピーリングタオル「ゴムポンつつる」、クリーン系商品のボトルの中では液体なのに噴射した瞬間ジェルに変化するカビ取り剤「スパイダージェル」等の商品が売上が牽引いたしましたが、前述のとおり、ウクライナ情勢による世界経済への影響（原材料の高騰や円安）により、輸入商品の企画・開発が想定よりも進まなかったことから、メディアで取り上げられる商品数が減少し、広告シャワー効果の影響が薄まったことにより、当第3四半期累計期間の売上高は、595,240千円となりました。

④ セールスポモーション

当販売チャネルには、企業等からのプロモーション活動や社内教育の依頼に基づいた実演販売士の派遣による売上が含まれます。引き続き新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、前事業年度からイベント案件数の回復には至らないものの、動画制作案件の受注が寄与したことにより、当第3四半期累計期間の売上高は、89,261千円となりました。

⑤ デモカウ

当販売チャネルには、当社が消費者へ直接商品を販売するための当社直営店舗「デモカウ」及びECサイト「デモカウ」の売上が含まれます。お客様及び従業員の安心安全を確保するため新型コロナウイルスの感染対策を徹底した上で営業活動を行い、ビューティ&ヘルス系商品の滑車を使った骨盤ベルト「骨盤整隊カシャーん」及びビューティ&ヘルス系商品のゴムを使用したピーリングタオル「ゴムポンつるつる」等の商品が売上が牽引しましたが、オミクロン株の感染拡大の影響から、依然として来店者数がコロナ前の水準に戻っておらず、売上高は低迷することとなりました。またECサイトにおいてはビューティ&ヘルス系商品の滑車を使った骨盤ベルト「骨盤整隊カシャーん」及びクリーン系商品の掃除用クロス「パルスイクロス」などが売上が牽引しましたが、前述の理由等により、当第3四半期累計期間の売上高は、47,924千円となりました。

⑥ その他

当販売チャネルには、社内販売制度に基づいた売上が含まれます。当第3四半期累計期間の売上高は、14千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べて72,331千円減少し、3,230,925千円となりました。流動資産は、前事業年度末に比べて108,438千円減少し、3,120,108千円となりました。主な要因は、現金及び預金が432,253千円増加した一方で、棚卸資産が241,651千円、売掛金が112,881千円減少したことによるものであります。固定資産は、前事業年度末に比べて36,106千円増加し、110,817千円となりました。主な要因は、無形固定資産が22,908千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債総額は、前事業年度末に比べて55,081千円減少し、355,465千円となりました。流動負債は、前事業年度に比べて52,629千円減少し、333,132千円となりました。主な要因は、買掛金が54,927千円、未払消費税等が44,072千円増加した一方で短期借入金が157,500千円、未払金が5,921千円、未払費用が2,967千円減少したことによるものであります。固定負債は、前事業年度に比べて2,452千円減少し、22,332千円となりました。主な要因は、退職給付引当金が2,347千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、四半期純損失の計上により利益剰余金が17,194千円減少したことにより、前事業年度末に比べて17,250千円減少し、2,875,459千円となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年2月期の業績予想について、2022年10月14日に公表いたしました業績予想は修正しておりません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2022年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,094,274	1,526,527
電子記録債権	37,821	264
受取手形	3,532	-
売掛金	319,468	206,586
棚卸資産	1,600,067	1,358,415
前払費用	6,690	7,601
未収入金	210	302
未収還付法人税等	121,997	20,793
未収消費税等	44,903	-
その他	276	245
貸倒引当金	△695	△631
流動資産合計	3,228,546	3,120,108
固定資産		
有形固定資産	24,738	22,583
無形固定資産	26,584	49,493
投資その他の資産	23,387	38,740
固定資産合計	74,710	110,817
資産合計	3,303,257	3,230,925

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2022年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	111,306	166,234
短期借入金	157,500	-
リース債務	32	-
未払金	34,264	28,343
未払費用	33,678	30,710
未払法人税等	254	-
未払消費税等	-	44,072
預り金	5,852	4,559
契約負債	4,033	4,040
賞与引当金	38,839	50,798
その他	-	4,373
流動負債合計	385,762	333,132
固定負債		
退職給付引当金	16,815	14,467
資産除去債務	7,612	7,614
長期未払金	357	249
固定負債合計	24,784	22,332
負債合計	410,547	355,465
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	401,160	401,160
資本剰余金	389,160	389,160
利益剰余金	2,102,642	2,085,448
自己株式	△252	△308
株主資本合計	2,892,709	2,875,459
純資産合計	2,892,709	2,875,459
負債純資産合計	3,303,257	3,230,925

(2) 四半期損益計算書  
第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
売上高	3,338,423	2,098,173
売上原価	2,213,165	1,319,952
売上総利益	1,125,257	778,221
販売費及び一般管理費	965,366	810,628
営業利益又は営業損失(△)	159,890	△32,406
営業外収益		
受取利息及び配当金	8	8
助成金収入	1,039	442
還付加算金	-	778
その他	57	59
営業外収益合計	1,104	1,287
営業外費用		
支払利息	118	360
売掛債権譲渡損	1,622	661
その他	436	112
営業外費用合計	2,176	1,135
経常利益又は経常損失(△)	158,818	△32,254
特別利益		
固定資産売却益	-	32
特別利益合計	-	32
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	158,818	△32,221
法人税等	55,107	△15,026
四半期純利益又は四半期純損失(△)	103,710	△17,194

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、実演販売関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。